

Title	『並河潤菊家傳遺物目錄』翻刻（增訂版）
Author(s)	矢羽野, 隆男; 池田, 光子
Citation	懷徳堂研究. 2018, 9, p. 93-113
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/71316">https://hdl.handle.net/11094/71316</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 『並河潤菊家傳遺物目録』翻刻（増訂版）

矢羽野 隆男  
池田 光子

『並河潤菊家傳遺物目録』（以下『閨菊目録』）は、明治二年（一八六九）に懷徳堂が閉校した後、中井木菟麻呂（一八五五～一九四三）が継承した懷徳堂関係（水哉館を含む）の遺書遺物とは別に、懷徳堂最後の教授であった並河寒泉（一七九七～一八七九）が継承し、寒泉の四女閨菊（一八四六～一八八八）、そして京都並河宗家の並河総次郎へと伝えられた懷徳堂関係および並河家の遺書遺物の目録である。この『閨菊目録』からは、寒泉が幕末維新の混乱期に散逸を防ぎ、後世に遺したとされる資料の具体的な姿が見取れる。かつ、今日大阪大学が所蔵する「懷徳堂文庫」の資料がどのような経緯で伝えられたかの一端を窺うこともできる。

『閨菊目録』については、すでに矢羽野・池田『並河潤菊家傳遺物目録』翻刻および解説（本誌第五号、二〇一四年）において、『閨菊目録』の翻刻とともにその

書誌・内容・価値等を解題にまとめて発表した。ただ前稿の解題で『閨菊目録』の歴史的な位置づけを述べた際、関連する資料である『懷徳堂展覧会目録』（一九一一年）に言及し落とし、やはり関連資料である中井木菟麻呂出版『百首贅々』（博文館、一八九二年）の付録「懷徳堂遺編目録」水哉館遺編目録」が視野に入っていなかった。今回『懷徳堂展覧会目録』所載の関連情報を『閨菊目録』に補記し、また前稿「解題」のうち『懷徳堂展覧会目録』と『百首贅々』付録目録に関する部分を追補し、前稿の不備を補訂したい。前稿と併せてご覧いただければ幸いです。

\*

水哉館も含めた懷徳堂関係の書籍・器物の所蔵状況を記した目録として、江戸期のものに『天楽樓書籍遺蔵目録』（一八三四年）、『懷徳堂蔵書目』（一八四〇年頃か）

がある。前者は、中井履軒の水哉館を継承した中井柚園ゆいゑんが没した天保五年（一八三四）に水哉館の蔵書を列挙したもので、履軒の蔵書の全容をほぼ正確に伝えるものとされる<sup>(1)</sup>。また後者は、並河寒泉・中井桐園の作成による懷徳堂の蔵書目録で、中井碩果せきか（一七七一～一八四〇）の没後まもない時期の成立とされている<sup>(2)</sup>。

この江戸期の二種の目録から後、中井木菟麻呂が懷徳堂記念会に寄贈した際の「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」（『懷徳』十七号、一九三九年）、および懷徳堂記念会の蒐集の成果である「懷徳堂所蔵 懷徳堂先賢著述書目」（『懷徳』十九号、一九四一年）までの間、その所蔵状況を示す資料としては明治四十四年（一九一〇）十月の『懷徳堂展覽会目録』が知られる。これは同年の懷徳堂記念祭（懷徳堂師儒公祭）に併せて開催された記念展覽会の目録で、「懷徳堂水哉館遺書遺物出陳目録」と「諸家出陳目録」との二部構成となっており、前者が木菟麻呂所蔵資料の出品目録である。木菟麻呂の所蔵品全てが挙げられているものではなからうが、後に木菟麻呂が懷徳堂記念会に寄贈した多くの遺書遺物が見える。懷徳堂関係の遺書遺物が、江戸後期から明治末年以降に木菟麻呂の所蔵に帰するまで、その間の空白を補う資料がこの『閩菊目録』ということになる<sup>(3)</sup>。今回『閩菊目録』に所載の

遺書遺物について、後に木菟麻呂の所蔵となった『展覽会目録』の情報を補記した。

\*

木菟麻呂が明治二十五年（一八九二）十一月に東京の博文館から出版した『百首贅々』（国立国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉で閲覧可能）の付録に「懷徳堂遺編目録」「水哉館遺編目録」がある。中井木菟麻呂が懷徳堂および水哉館の先哲の著述を列挙した目録で、各目録の冒頭に目録編集の意図・経緯を記す簡単な識語を載せる。「懷徳堂遺編目録」識語は「明治壬辰六月癸巳」（明治壬辰は明治二十五年・一八九二）、「水哉館遺編目録」識語は「明治壬辰七月壬戌」の日付をもつ。

「懷徳堂遺編目録」識語によると、懷徳堂閉校以後、先哲の遺著の多くが散逸し、書籍目録が不備で、手掛かりがなかったが、今年（明治二十五年）一月に京都周辺で書籍を収集したところ二三の書目入手し、これを旧蔵の遺著と照合して、散逸した書籍の篇目を知ることができたので、遺漏を補い異同を整理して「懷徳堂遺著編目」を作成した。およそ六十九篇、書物が無いものは三十六篇、疑わしいものは省いた、という。この識語および「水哉館遺著編目」識語の（現存する書物は八十五

篇（中略）『天樂樓遺書書目』と見比べるに、記録に有つて書物がないもの二十二篇、書物が有つて記録に無いもの五篇、そこで諸本を整理し、すべて百一十篇」との記述からわかるように、この目録は懷徳堂・水哉館の遺著の現に存在するものを確認しての記録ではなく、書目で知られる著述も含めた著述一覽である。

識語に「今年一月に書籍を京都周辺に収集したところ二三の書目を入し云々」という時期は、木菟麻呂が並河総次郎から『百首贅々』『左九羅帖』など十二部の書籍を借用した明治二十五年一月十六日と一致する。かつ、両目録には、木菟麻呂が総次郎から借用した書籍、すなわち、『津問』『炎窓代睡』『喩叢』（以上「懷徳堂遺編目録」）、『百首贅々』『左九羅帖』『画觴』『幽人先生反古録』『唐詩選俗解』（目録には「唐詩選国字解」とする）『名物弁解雕題』（目録には「履軒先生雕題詩經名物辨解」とする）（以上「水哉館遺編目録」）を載せている。木菟麻呂が両目録を作成するに当たり、総次郎の保管する『閩菊目録』および寒泉旧蔵の遺著を利用したことは間違いないであろう。

参考のため以下に両目録の識語の原文とその書き下し文とを掲げる。なお原文には返り点と読点が付されており、書き下し文はそれを参考に、適宜句点も混ぜ用いた。

#### 懷徳堂遺編目録

維昔我懷徳書院撤帷、圖籍散亂、先哲遺書、亡蓋多矣、書目不<sub>レ</sub>備、莫<sub>二</sub>足<sub>レ</sub>徵者、今茲首春、余聚<sub>二</sub>書于京畿<sub>一</sub>、得<sub>二</sub>二三書目<sub>一</sub>、稽<sub>二</sub>諸舊藏遺本<sub>一</sub>、逸書篇目可<sub>二</sub>得而知<sub>二</sub>也、於<sub>レ</sub>是拾<sub>レ</sub>遺補<sub>レ</sub>闕、協<sub>二</sub>厥異同<sub>一</sub>、爲<sub>二</sub>懷徳堂遺編目録<sub>一</sub>、凡六十九篇、無<sub>レ</sub>書者二十六篇、疑則闕焉、明治壬辰六月癸巳、中井生成文謹識、

維<sub>レ</sub>れ昔<sub>レ</sub>我<sub>レ</sub>が懷徳書院<sub>レ</sub>帷<sub>レ</sub>を撤<sub>レ</sub>してより、圖籍<sub>レ</sub>散亂<sub>レ</sub>し、先哲<sub>レ</sub>の遺書<sub>レ</sub>、亡<sub>レ</sub>ぶもの蓋<sub>レ</sub>し多<sub>レ</sub>し。書目<sub>レ</sub>備<sub>レ</sub>はらず、徵<sub>レ</sub>するに足<sub>レ</sub>る者莫<sub>レ</sub>し。今茲<sub>二</sub>首春<sub>一</sub>、余<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>を京畿<sub>二</sub>に聚<sub>レ</sub>め、二三の書目<sub>レ</sub>を得、諸<sub>レ</sub>を舊藏<sub>レ</sub>の遺本<sub>二</sub>に稽<sub>レ</sub>ぶるに、逸書<sub>レ</sub>の篇目<sub>レ</sub>得て知るべきなり。是<sub>二</sub>に於<sub>レ</sub>いて遺<sub>レ</sub>ちたるを拾<sub>レ</sub>ひ闕<sub>レ</sub>くるを補ひ、厥<sub>レ</sub>の異同<sub>レ</sub>を協<sub>レ</sub>はせ、「懷徳堂遺編目録」を爲<sub>レ</sub>る。凡そ六十九篇、書無<sub>レ</sub>き者三十六篇、疑<sub>レ</sub>はしきは則ち闕<sub>レ</sub>く。明治壬辰六月癸巳、中井生成文謹<sub>レ</sub>みて識<sub>レ</sub>す。

#### 水哉館遺編目録

昔者吾履軒先生、刪<sub>レ</sub>詩、正<sub>二</sub>七經<sub>一</sub>、治<sub>二</sub>八史<sub>一</sub>、子<sub>二</sub>十二書<sub>一</sub>、次<sub>二</sub>禮樂刑政軍法醫術音韻曆數之言<sub>一</sub>、自<sub>二</sub>水哉館撤<sub>レ</sub>帷後、集<sub>二</sub>其諸書<sub>一</sub>、在<sub>二</sub>懷徳書院書庫<sub>一</sub>、懷徳書院撤<sub>レ</sub>帷、先君子既沒、傳<sub>二</sub>於余<sub>一</sub>、蓋多闕、後頗獲、今所<sub>レ</sub>

存凡八十五篇、余閱天樂樓遺書書目、有録無書者十二篇、有書無録者五篇、更覽履軒小乘所載、及他二三目錄、較有不<sub>レ</sub>同、於是整齊諸本、爲水哉館遺編目錄、凡百一十篇、幽人先生反古録、袖園先生遺稿、附于後、明治壬辰七月壬戌、中井生成文謹識、

昔者<sup>むかし</sup>吾が履軒先生、詩を刪り七經を正し、八史<sup>マツ</sup>二子十二書を治め、禮樂刑政軍法醫術音韻曆數の言に次る。水哉館帷を撤してより後、其の諸書を集め、懷徳書院の書庫に在り。懷徳書院帷を撤し、先君子既に没し、余に傳はるもの、蓋し多く闕く。後に頗る獲<sup>え</sup>、今に存する所凡そ八十五篇。余『天樂樓遺書書目』を閲るに、録有りて書無き者二十二篇、書有りて録無き者五篇、更に『履軒小乘』の載する所、及び他の二三の目錄を覽、較同じからざる有り。是に於いて諸本を整齊し、「水哉館遺編目錄」を爲<sup>つく</sup>。凡そ百一十篇、『幽人先生反古録』、『袖園先生遺稿』は、後に附す。明治壬辰七月壬戌、中井生成文謹みて識す。

## 「並河潤菊家傳遺物目錄」翻刻

### 【凡例】

- ・ 原本は縦書きであるが、書誌情報の整理に関する技術的な理由から横書きに改めた。
- ・ 漢字・仮名の字体は、できるだけ目録に使用された字体に近い形を用いた。
- ・ 目録・別紙文書所載の遺物には通し番号を振った。
- ・ 原本の葉数は半葉ごとに区切って「頁」欄に示した。例えば、3a、5bはそれぞれ、三葉オモテ、五葉ウラ、の意味である。
- ・ 目録の欄外には、圈点が付されたり、「中井」と刻した丸印、「並河」と刻した丸印が押されたりする。圈点・中井丸印・並河丸印のあるものには、それぞれの欄に○印を付した。
- ・ 目録の欄内には、遺物名称、補足書入れ、数量を記すほか、遺物名の上下に角印が押され、また圈点が付されるものもある。二つの角印のうち、上の印は字形が判読できず「某印」とした。下の印は「並河総」と刻す。角印・圈点のあるものには、それぞれの欄に○印を付した。「某印」の印影は左図の通りである。大方

目録の通番号を記した〔No.〇〇〕と表示。

のご教示を賜りたい。

目録の欄外下にも圈点を付すものがある。圈点のあるものには、その欄に○印を付した。

備考欄には、目録の欄外上に記された書入れや、翻刻者による補足情報などを記した。

目録部分の備考欄の補足情報として、当該資料が『懷徳堂展覽会目録』（一九一一年）および「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」（一九三九年）所載の資料と対応するものには、『懷徳堂展覽会目録』については掲載頁数、「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」については同目録の通番号を記した（「展覽目録〇〇頁」、「懷水遺目〇〇」と表示）。また、当該資料が新田文庫所収の資料と対応するものには、池田作成「第一次新田文庫暫定目録」（二〇〇四年）及び「第一次新田文庫暫定目録（続）」（二〇〇五年）の整理記号を記した（〔E〇〇〕と表示）。別紙文書部分の備考欄の補足情報として、当該資料が「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」所載の資料と対応するものには同目録の通番号を記した（「懷水遺目〇〇」と表示）。また新田文庫所収の資料と対応するものには、「第一次新田文庫暫定目録」及び「第一次新田文庫暫定目録（続）」の整理記号を記した（〔E〇〇〕と表示）。また当該資料が目録部分に見えるものには本



図 「某印」印影

No.	頁	上欄外			欄内			並河書入	欄内	数量	数量 園点	下欄外		備考
		中井丸印	並河丸印	並河番号	某印	並河書入	園点					園点		
1a							並河漕船家傳遺物目錄 <small>書種ノ部</small>							
1					○		李花集			貳冊				
2					○		大學墨搦帖			老筆				
3					○		權翁老人古稀書面帖			○ 老筆				
4					○		方正學先生集			拾冊				
5					○		大平記			貳拾冊				
6					○		河鑑類函目錄			全				
7					○		輿陰集			拾老冊				
8					○		四書五經不全書			八冊				
9					○		牛騷之筭			全				
10					○		北野茶會記			全				
11					○		質疑篇			全				
12					○		言忘疎錄			全				
13					○		養生訓			八冊				
14					○		伊洛淵源錄			八冊				
14a					○		柔遠錄			八冊				
15					○		海防錄			全				
16					○		海防彙議			九冊				
17					○		新刊用字略			四冊				
18					○		赤穂義人録補			貳冊				
19					○		環海異聞			八冊				
20					○		常山記談			廿五冊				上欄外書入「三四五六七十一」
21					○		世説			拾冊				
21a					○		近思錄			拾冊				
22					○		自品考			貳冊				
23					○		梅陰詩稿			貳冊				
24					○		轉蓬書			壹冊				
25					○		同業議補			拾五冊				
26					○		同業議補			拾五冊				
27					○		瑣語			四冊				
28					○		博愛堂集古印譜			貳冊				
29					○		大日本史			一二九十九冊欠				
30					○		日本文鈔			五拾七冊				展覧目錄20頁少、懷水遺目105
30a					○		續近世略人傳			三冊				
31					○		百品考			五冊				
32					○		百品考			貳冊				

No.	頁	上欄外		欄内		並河角印	欄内		下欄外				
		中丸印	並河丸印	番号	某印		書入	数量	数量	備考			
33				—	○		桐陽詩鈔	○					
34				—	○		澤民筆語	○					
35				—	○		大橋上書	○					大橋訶庵の上書か
36				—	○		夷歌渡來語録	○					
37				—	○		志州田曾曹松濤著記	○					
38, 38a				—	○		弘化丙午閏月浦賀普羅船記	○					
39				—	○		仙石家一件扣	○					
40				—	○		仰出享	○					
41				—	○		百姓治郎吉女房 御養美一件	○					
42				—	○		壽三郎書翰	○					
43				—	○		仙臺侯殿夷警衛録	○					
44				—	○		英吉利渡來應接始末	○					
45				—	○		大塚河鹿海防議	○					
46, 46a				—	○		書棚雜開録	○					
47				—	○		書棚天論	○					
48				—	○		東澤天論	○					
49				—	○		橋本頭領上木府書	○					
50				—	○		川勝建議	○					
51				—	○		江戸井河院譜	○					
52				—	○		家祖先生遺蹟	○					
53				—	○		並河氏客譜	○					
54, 54a				—	○		松前乃消息	○					
55				—	○		五ヶ国見開録	○					
56				—	○		漂美記巻	○					
57				—	○		墨書并答書	○					
58				—	○		華夷對話	○					
59				—	○		蘭船風説	○					
60				—	○		天宮物語	○					
61				—	○		讀皇額陳情書	○					
62, 62a				—	○		補開録	○					
63				—	○		墨約俗解	○					
64				—	○		長崎對話	○					
65				—	○		安藤風抄	○					
66				—	○		藤寅開録	○					
67				—	○		万由開録	○					
68				—	○		慶寅開録	○					
69				—	○		慶引開録	○					

No.	頁	上欄外			欄内			下欄外			備考	
		中井丸印	並河丸印	並河番号	某印	並河角印	欄内書入	数量	数量	欄内		
70	5b				○		安巳閑録	○		全		
71				一	○		安甲閑録	○		上下		
72				一	○		文西閑録	○		全		
73				一	○		文亥閑録	○		五冊		
74				一	○		乙卯閑録	○		全		
75				一	○		安未閑録	○		全		
76				一	○		元子閑録	○		全		
77				一	○		慶貞閑録	○		四冊		
78	ba			一	○		安辰閑録	○		上下		
79				一	○		安午閑録	○		全		
80				一	○		安卯閑録	○		全		
81				一	○		文茂閑録	○		四冊		
82				一	○		嘉永甲寅閑録	○		全		
83				一	○		因辰紀行	○		全		
84				一	○		敵策上巻	○		巻		
85				一	○		豊忠録	○		全		
86	6b			一	○		閑窓瀟語	○		全		
87				一	○		仙石家珍事	○		全		
88				一	○		菅公年譜	○		全		
89				一	○		隅吳	○		全		
90				一	○		空巾雄詩	○		全		
91				一	○		鳩先生文集	○		上巻冊欠		E 306
92				一	○		地震突涛	○		全		
93				一	○		川角大開記	○		五冊		
94	7a			一	○		春秋左傳	○		七冊		
95				一	○		臺碑考	○		二冊		
96				一	○		蒲生智閑集	○		上下		蒲生智閑は室町後期の公家、和歌に優れる
97				一	○		光平筆記	○		全		
98				一	○		木相譜	○		全		
99				一	○		残櫓記	○		全		
100				一	○		弘安礼節	○		全		
101				一	○		榊判官正成兵庫記	○		全		
102	7b			一	○		嘉永甲寅大地震津波録	○		全		
103				一	○		並河五一翁和歌	○		全		
104				一	○		南里遺稿	○		四冊		
105				一	○		藤辨	○		上下		

No.	上欄外		欄内		並河 角印	欄内		数量	数量 園点	下欄外	
	頁	園点 丸印	並河 丸印	番号 某印		書入	数量 園点			備考	
106			—	○			五冊				
107			—	○			全				
108			—	○			完				
109			—	○			拾五冊				
110	8a		—	○			四冊				
111			—	○			上下				
112			—	○			拾冊				
113			—	○			五冊				
114			—	○			五冊				
115			—	○			一冊				
116			—	○			五冊				
117			—	○			上下				
118	8b		—	○			拾式冊				
119			—	○			全				
120			—	○			四冊				
121			—	○			全				
122			—	○			拾卷冊				
123			—	○			五冊				
124			—	○			三冊				
125	9a		—	○			上下				
126			—	○			七冊				
127			—	○			拾冊				
128			—	○			六冊				
129			—	○			式冊				
130			—	○			拾卷冊				
131			—	○			拾四九冊				
132			—	○			上下				
133	9b		—	○			全				
134			—	○			六冊				
135			—	○			式部				
136			—	○			式冊				
137			—	○			拾冊				
138			—	○			拾冊				
139			—	○			三冊				
140			—	○			七冊				

No.	頁	上欄外			欄内			下欄外			
		中井丸印	並河丸印	並河番号	某印	並河角印	欄内書入	数量	数量 欄点	欄点	備考
141	10a		○	○	五経集傳	○	五拾八冊				
142			○	○	天和本紳	○	九冊				
143			○	○	雲上明覽	○	上下				
144			○	○	文天祥集	○	拾冊				
145			○	○	八大家文鈔	○	拾卷冊				
146			○	○	訓俗遺規	○	四冊				
147			○	○	隨園詩話	○	拾冊				某印を手書き消す
148	10b		○	○	韻鈔寒香	○	八冊				
149			○	○	兵要錄	○	四冊				
150			○	○	養小錄	○	全冊				
151			○	○	甘雨亭叢書	○	八冊				
152			○	○	文抄	○	第一集				
153			○	○	小本四書	○	唐本				
154			○	○	陵墓一隅抄	○	六冊				
155			○	○	碧岬	○	全冊				水戸の原南陽の通俗医学書
156	11a		○	○	白石遺文拾遺	○	下巻				
157			○	○	随園詩話	○	拾冊				
158			○	○	厚詩品彙	○	全冊				
159			○	○	東征稿 西上記	○	小本共 小本貳冊有				両書とも竹山著。懷徳堂文庫に刊本一部貳冊、写本二部貳冊、計四冊あり。
160			○	○	藤黄尺牘	○	六冊				
161			○	○	甘雨亭叢書 貳集	○	八冊				
162			○	○	蓬生八牋	○	拾四冊				明の高濂の養生書
163			○	○	武鑑	○	六冊				
164	11b		○	○	書画一瞥	○	全冊				
165			○	○	戎政要書	○	全冊				
166			○	○	詩韻輯要	○	小本				
167			○	○	一夜百言	○	小本				
168			○	○	写本古文尚書	○	祇南游				
169			○	○	雪玉集	○	拾三冊				
170			○	○	綴夷奇觀	○	不全				
171			○	○	美国畧品	○	貳冊				
172	12a		○	○	任吉百首	○	全冊				
173			○	○	南山遺紳	○	全冊				
174			○	○	元和日記	○	三冊				
			○	○	政談	○	貳冊				
			○	○		○	四冊				

No.	頁	上欄外		欄内		並河	欄内		数量	数量	下欄外		備考
		丸印	中井丸印	並河丸印	番号		某印	書入			欄内	欄内	
175				—	○	○	○	○	拾貳冊				
176				—	○	○	○	○	全部				
177				—	○	○	○	○	拾三冊				
178				—	○	○	○	○	三冊				
179				—	○	○	○	○	全				
180_12b				—	○	○	○	○	貳冊				
181				—	○	○	○	○	貳拾冊				江戸中期の国学者・大草公弼の著
182				—	○	○	○	○	壹冊				
183				—	○	○	○	○	四冊				江戸中期の国学者・安藤年山の隨筆か
184				—	○	○	○	○	貳冊				明の呉廷燾の著
185				—	○	○	○	○	三冊				懷水遺目223
186				—	○	○	○	○	三冊				E159
187				—	○	○	○	○	全				
188_13a				—	○	○	○	○	老冊				懷水遺目93
189				—	○	○	○	○	三冊				
190				—	○	○	○	○	貳冊				水戸の安積寛の著
191				—	○	○	○	○	老冊				
192				—	○	○	○	○	全				
193				—	○	○	○	○	三冊				誠惠は寒泉の父並河尚誠の諡
194				—	○	○	○	○	全				
195				—	○	○	○	○	貳冊				
196_13b				—	○	○	○	○	三冊				
197				—	○	○	○	○	貳冊				
198				—	○	○	○	○	全				
199				—	○	○	○	○	三冊				
200				—	○	○	○	○	全				「筆」は「腕」か。篋集は寒泉編輯による中井碩果の詩文集。項集は寒泉編輯による中井蕉園の詩文集。
201				—	○	○	○	○	全				
202				—	○	○	○	○	貳冊				
203				—	○	○	○	○	參冊				
204_14a				—	○	○	○	○	全				
205				—	○	○	○	○	全				
206				—	○	○	○	○	四冊				
207				—	○	○	○	○	四冊				
208				—	○	○	○	○	五冊				
209				—	○	○	○	○	全				

No.	頁	欄外			欄内			下欄外			備考	
		中井丸印	並河丸印	並河番号	某印	並河角印	欄内書入	数量	数量	欄内		
210												
211				一	○	浪速上古語説		全				
212	14b			一	○	多つた考		全				
213				一	○	家庭指南		全				
214				一	○	神符考		全				
215				一	○	一例家記		全				
216				一	○	金城開居録		全				
217				一	○	貞丈雜記		貳冊				
218				一	○	善權隨筆		貳冊				江戸中期の儒者・朝川鼎の著
219				一	○	國語尊昭注		全				
220	15a			一	○	壽珥録		全				
221				一	○	春秋左傳系譜		全				
222				一	○	論語考文		全				
223				一	○	日記故事大全		全				
224				一	○	羣書類集		四拾壹冊				
225				一	○	宮觀公革品		全				
226				一	○	文器		全				
227				一	○	道灌隨筆		全				
228	15b			一	○	幕朝年中行事歌合	上	壹冊				
229				一	○	國語		五冊				
230				一	○	養生論		拾三冊				
231				一	○	禮記紀聞	二卷不足	七冊				
232				一	○	書経金丹		七冊				
233				一	○	明律解		壹箱				
234				一	○	五畿内史	二十四冊	壹箱				
235				一	○	非言茶話		上下				室鳩巢の著
236	16a			一	○	藤洲夜話		上下				江戸前期の兵学者・大道寺友山の著
237				一	○	荷且獨語		四冊				著者未詳の地誌
238				一	○	礼記金丹		九冊				
239				一	○	東坡集		八冊				
240				一	○	正字通		四拾冊				
				一	○	古本論語集解		一冊				
						以上 蔵書						
						惣計貳百三拾九目錄						
						掛幅軸数目錄						
241	16b			一	○	成良王御咏		壹箱				鎌倉-南北朝期の皇族

No.	頁	上欄外		欄内		並河 角印	欄内 書入	数量	数量 園点	園点	備考
		園点	中井 丸印	並河 丸印	番号						
242				○	—	○	文麗大洲老侯画	一箱	○	○	上欄外書入「谷文晁ノ師ナリ」
243				—	○	○	朝艇明季如松書大幅	一箱	○	○	
244				—	○	○	誠所天良孝崇三先生俗牀	一箱	○	○	
245		○		—	○	○	源義家望雁図	一箱	○	○	平成8年度に懷徳堂記念会が購入して収集。「中井藍江筆、中井蕉園賛『騎馬武者図』一幅」『懷徳』65号彙報
246				—	○	○	竹山蕉園両先生答先子牀	一箱			
247		○		—	○	○	五孝子傳	一幅	○	○	
248				—	○	○	園苑獅子牡丹図	一幅	○	○	
249 17a		○		—	○	○	岳公自贊	一幅	○	○	
250				—	○	○	鳩巢先生俗牀	一幅	○	○	
251				—	○	○	鷹尾重相藤公賜詠	一箱	○	○	
252				—	○	○	阪府西尹久須美君竹自画自讀	一箱	○	○	
253				—	○	○	蕉園先生寒藤樓記	一箱	○	○	
254				—	○	○	関月千破破面	一箱	○	○	
255				—	○	○	誠所先生機紙	一箱	○	○	
256		○		—	○	○	大石山科寓居証書	三通	○	○	上欄外書入「義士」
257 17b				—	○	○	劉玄徳携岬鞋図	一幅	○	○	
258				—	○	○	竹山自作元日詩	一幅	○	○	
259				—	○	○	猿峯復讐象外面	一幅	○	○	異覧目録23頁、懷水遺目132
260				—	○	○	樂翁大公寶松園雅	一幅	○	○	
261				—	○	○	懷徳堂記草稿	一幅	○	○	
262		○		—	○	○	石大夫與寺井玄溪書	一幅	○	○	上欄外書入「義士」
263				—	○	○	蕉園先生對竹古詩	一幅	○	○	
264				—	○	○	伏水王賜院	一幅	○	○	
265 18a				—	○	○	劉園	一幅	○	○	
266				—	○	○	小兒曳斷母之繒錢図	一幅	○	○	
267				—	○	○	松村喜兵衛書狀	一幅	○	○	上欄外書入「義士」
268				—	○	○	萬年先生山静一行	一箱	○	○	
269				—	○	○	五井先生顔面	一箱	○	○	
270				—	○	○	燕沢岫里末清俊書墨榻	一幅	○	○	
271				—	○	○	藤司園日政連公自画讀	一幅	○	○	

No.	頁	上欄外			欄内			下欄外				
		圈点	中井丸印	並河丸印	並河番号	某印	並河角印	欄内書入	数量	数量圈点	圈点	備考
272												
273	18b	○			○				一幅	○		上欄外書入「義士」
274		○			○				一幅	○		
275					○				一幅	○		馬杉亭安は京都の歌人
276		○			○				一幅	○		展覧目録22頁、懷永遺目129
277					○				一幅	○		
278					○				一箱	○		
279					○				一箱	○		
280					○				一幅	○		
281	19a				○				一幅	○		
282					○				一幅	○		
283					○				一幅	○		
284		○			○				一幅	○		
285					○				一幅	○		
286					○				一幅	○		
287					○				一部	○		
288					○				一箱	○		E1
289	19b				○				一幅	○		
290					○				一幅	○		
291					○				一幅	○		
292					○				一幅	○		
293					○				一幅	○		油小路隆前
294					○				一幅	○		
295		○			○				一幅	○		
296					○				一幅	○		
297	20a				○				一幅	○		
298					○				一幅	○		上欄外書入「光孚七世ノ祖」
299					○				一幅	○		
300					○				一卷	○		
301		○			○				一枚	○		

No.	頁	上欄外		欄内		並河 角印	欄内		数量	数量 圖点	下欄外		備考
		圖点	中井 丸印	並河 丸印	番号		某印	欄内 書入			圖点		
302					一	○			秋田款冬葉打摺字	一枚			
303					一	○			御船守来之図	一枚			
304					一	○			関羽之肖像	一枚			
305	20b				一	○			石大夫万夜遊之図	一枚			
306					一	○			孝女八ツ俊	一枚			
307					一	○			竹山先生書	七枚			
308					○				万国一覽	一箱	○		
309					一	○			探冊掛	一軸			
310					一	○			釋尊図	一卷			
311					一	○			鳥居城右衛門図	一枚			
312					一	○			雷鼠之図	一枚			
313	21a				一	○			祖来詩会之図	一枚	○		祖来は徂徠か
314					一	○			山水之図	一枚			
315					一	○			孝子万吉像	一枚			
316					一	○			孔聖像	一枚	○		上欄外書入「狩野柳雪秀信、寛文十二年七月十一日卒」
317					一	○			多賀坂碑石摺	一枚			
318					一	○			剖国之図	一箱			
319					一	○			秘帖	一冊			
320					一	○			画軸	一冊			
321	21b				一	○			反古骨帖	二冊			
322					一	○			胎瀟園帖	一冊			
323					一	○			陸奥合巻	共二冊			
324					一	○			寒謙額	一掲			
325					一	○			探冊箱	一箇			
326					一	○			裏隠帖	一冊			懷水遺目306
327					一	○			本朝住吉拾遺圖説	一冊			
328					一	○			萬年先生鏡丞帖	一冊			懷水遺目305
329	22a				一	○			水傳額	一掲	○		
330					一	○			武經	一部			
									以上				
									文書画題二十拾九名				
									家傳器物類目錄				

No.	頁	上欄外			欄内			欄内			下欄外		備考
		中井丸印	並河丸印	並河番号	某印	並河角印	欄内書入	数量	数量	欄内	欄外		
331			一	〇	一閑張几案	〇		一脚					
332			一	〇	誦書几	〇		一脚					
333	22b		一	〇	大硯	〇		一泓					
334			一	〇	自然石硯			一泓					
335			一	〇	帶剣	〇	長短	三腰					
336			一	〇	居合刀			一腰					
337			一	〇	劍依箱古具足	〇		一箇					
338			一	〇	真鍮几上匣燭臺	〇		一箇					
339			一	〇	行燈銅油皿 <sup>2</sup> 銅字盆	〇		一枚					
340			一	〇	染付伊万里重箱	〇	箱破損						
341	23a		一	〇	漚色塗吸物碗	〇	十八前	一箱					
342			一	〇	柳几案	〇		一脚					
343			一	〇	見書几	〇	引出付	一脚					
344			一	〇	中硯	〇		一泓					
345			一	〇	古銅獸形小滴	〇		一箇					
346			一	〇	懷剣	〇		一符	〇				
347			一	〇	木刀	〇	一搦山崎賽假借 請未反	一本					
348			一	〇	大石大夫劍簷自由燭	〇		一本					
349	23b		一	〇	鐵長短文鏡	〇	共	五					
350			一	〇	武力油次添	〇							
351			一	〇	茶台碗	〇	十八前	一箱					
352			一	〇	鯛込付焼魚皿	〇	十八前	一箱					
353			一	〇	色絵陶徳利	〇		一本					
354			一	〇	猪口ニツ入	〇		一箱					
355			一	〇	春龍銚子	〇		一箱					
356			一	〇	縁羅輪魚皿	〇		九枚					
357	24a		一	〇	猪口類種々合敷	〇		十四					
358			一	〇	木皿		大小	共二十					
359			一	〇	古茶碗入	〇		一箱					
360			一	〇	硝子菓子盆	〇		一箱					
361			一	〇	染泥塀振出壺	〇		一箱					
362			一	〇	古銅奏眼火入	〇		一箱					
363			一	〇	葵草金焼付猪口	〇		一箱					
364			一	〇	葵草金焼朱盃添	〇		一具					
365	24b		一	〇	土器	〇		一箱					

No.	頁	上欄外			欄内			下欄外				
		中井丸印	並河丸印	番号	某印	並河丸印	欄内書入	数量	数量	備考		
366			—		〇							
367			—		〇							
368			—		〇		二十八前	五枚				
369			—		〇			一箱				
370			—		〇			一箱				
371			—		〇			一箱				
372			—		〇			一箱				
373	25a		—		〇			一ツ				
374			—		〇			一箱				
375			—		〇			一箱				
376			—		〇			一箱			E381	
377			—		〇			一箱				
378			—		〇		川東香盆二ツ、 蓋金一ツ入	一箱				
379			—		〇			一箱				
380			—		〇			一箱				
381	25b		—		〇			一箱				展覧目錄30頁、E3
382			—		〇			一箱				
383			—		〇			一ツ				
384			—		〇		二ツ	一箱				
385			—		〇			一ツ				
386			—		〇		外桑内桐引箱印入	一提				
387			—		〇		七十二翁陶白鷗連	箱破損				
388			—		〇		茶碗	一箱				
389	25a		—		〇		貴之古梅香盆	箱破損				
390			—		〇		銅鑪小湯甌	一ツ				
391			—		〇		燗ノ香炉	一箱				
392			—		〇		探冊掛	二種				
393			—		〇		琉球朱雲箱	一箱				
394			—		〇		薩摩華縁菓子盆	一ツ				
395			—		〇		散堂作薬花生	一ツ				
396			—		〇		武力小菓子入	一ツ				
397	26b		—		〇		墨香	一ツ				
398			—		〇		反古紙入手箱	六ツ				
399			—		〇		小形柳枝籠夾箱	一荷				
400			—		〇		内種ノ入					

No.	頁	上欄外			欄内			下欄外				
		中井丸印	並河丸印	並河番号	某印	並河角印	欄内書入	数量	数量 圈点	数量 圈点	備考	
401			○			挑灯箱	○	内古提灯杯入	三ツ			
402			○			相間圓火鉢	○	五徳舞瓶火鉢添				
403			○			掛子		白大	一箇			
404			○			染埴菓子入			一ツ			
405 27a			○			黄葉手建水			壹ツ			
406			○			埴貫火燵			壹ツ			
407			○			書圖紙種々入			一摺			
408			○			柳條筆		古裂在中	式ツ			
409			○			古半履		内品物入	壹ツ			
410			○			唐石茶碗			壹ツ			
411			○			爐助炭			壹ツ			
412			○			籠炭斗			式ツ			
413 27b			○			相引几床			壹			
414			○			障笠			一蓋			
415		○	○			木司台			壹掛			展覧目録29頁、懷水遺目174
416			○			厘零秤科			壹棹			
417			○			唐仙堂竹花生			壹箇			
418			○			黒塗花板			壹枚			
419			○			栗山池樋釘			壹本			
420			○			蓆杖			壹本			
421 28a			○			枕屏風		六枚折	一片			
422			○			襷立籠		二面添				
423			○			櫻鳩吐茶碗			壹具			
424			○			香籠		内物入	壹包			
425			○			琴狐矢掛板			壹枚			
426			○			茶杓			式箇			
427			○			膳魚盆			壹枚			
428			○			淀車釣瓶花生			壹个			
429 28b			○			晴雨天笠共			三本			
430			○			縫衣針尺箱		内品物入	一具			
431			○			長箱		備染具一式在中	壹組			
432						衣服類						
433			○			伏見宮御遺物御袍			一具			
434			○			仙臺平袴			一具			
			○			紋付黄帷子男衣			一着			





注

- (1) 湯浅邦弘編著『増補改訂版 懷徳堂事典』（大阪大学出版会、二〇一六年）「天楽楼書籍遺蔵目録」の項（一三七頁）参照。『懷徳』六十九号（二〇〇一年）に翻刻あり。
- (2) 『増補改訂版 懷徳堂事典』『懷徳堂蔵書目』の項（二一八頁）参照。
- (3) 竹田健二「中井木菟麻呂が受け継いだ懷徳堂の遺書遺物——小笠原家に預けられたものを中心に——」（大阪大学中国学会『中国研究集刊』第六十三号、二〇一七年）にも考察がある。